

学校関係者評価報告書

2018 年度

学校法人 村川学園

山手調理製菓専門学校



【目次】

1. 目的
2. 2018年度学校関係者評価委員会開催概要
3. 学校関係者評価委員による自己点検・評価の重点評価項目への提言

1. 目的

学校関係者評価委員会（以下、当委員会）は、山手調理製菓専門学校 学校関係者評価委員会規程に基づき、山手調理製菓専門学校（以下、本校）の自己点検・評価の結果について客観性と透明性を高めるとともに、学外の関係者から専門的な助言を得るため、外部評価を実施する機関として当委員会を組織した。当委員会は、本校の自己点検・評価を資料として、自己点検・評価委員会の内部評価を参考にし、さらに関係教職員との具体的な意見交換等を通して、本校の学校運営・教育活動について検証・評価及び助言を行うことを目的として実施している。当委員会委員は本校の教育理念を理解し、人材育成等に精通した学外の関係者の中から校長が選考し、委嘱している。

2018年度は、2017年度の自己点検・評価報告書を資料として、当委員会としての評価・助言を取りまとめ、本報告書を作成した。

2. 2018年度学校関係者評価委員会開催概要

第1回

① 開催日時

2019年1月29日(火) (分科会) 10:00~12:00、
2019年2月27日(水) 14:00~16:30

② 場所

(分科会) 山手調理製菓専門学校 7階会議室
大阪調理製菓専門学校 3階会議室

③ 出席者（敬称略）

谷内 恵介(泉大津市総合政策部地域経済課総括主査)
栗林 義直(大阪調理製菓専門学校 学生保護者)
川邑 千佳(大阪調理製菓専門学校 学生保護者)
川端 花世(大阪調理製菓専門学校 ecole UMEDA 製菓総合本科3期生)
福村 壽之(元高石市社会福祉協議会 業務執行理事 兼 事務局長)
廻戸 俊雄(株式会社クックラボ 代表取締役)
赤澤 昌浩(株式会社M・R・S 副部長)

第2回

① 開催日時

2019年3月20日(水) (分科会) 10:00~12:00

2019年3月22日(金) 14:00~16:30

② 場所

(分科会) 山手調理製菓専門学校 7階会議室

大阪調理製菓専門学校 3階会議室

③ 出席者 (敬称略) (予定)

谷内 恵介(泉大津市総合政策部地域経済課総括主査)

栗林 義直(大阪調理製菓専門学校 学生保護者)

川邑 千佳(大阪調理製菓専門学校 学生保護者)

川端 花世(大阪調理製菓専門学校 **ecole UMEDA** 製菓総合本科3期生)

福村 壽之(元高石市社会福祉協議会 業務執行理事 兼 事務局長)

赤澤 昌浩(株式会社M・R・S 副部長)

本田 徳之(株式会社クックラボ 取締役副社長)

3. 学校関係者評価委員による自己点検・評価の重点評価項目への提言

(1) 教育理念

【現状の課題点】

現状は充実した設備やカリキュラム等の教育環境は整備されており、理念・目的・育成人材像も教職員間、学生間にも周知されているが、それらの学外への周知に関しては改善の余地がある。学校案内書とホームページによる情報公開を行い、その内容も随時更新していくことが必要であると考えられる。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 昨今、知識や技術のみを優先していることが多くみられるがもっと人間界に即した教育が必要と思われる。料理のことだけでなく、人間育成が重要である。条理、人への思いやりが欠けると良い調理技術を持っていても意味がない。人の思い、思いやりが欠けると美味しい料理ができないと思う。料理は、文化、伝統、歴史、風土の中にある。
- ② 村川学園の専門学校の生徒は笑顔で良い挨拶をしてくれる。教育理念が活きていることを実感した。技術よりも先に教育することが大切である。この教育理念を継続して欲しい。

- ③ 学生指導において、こういった理念を元にされていたと思うと感動した。これを続ける事で、**2025**年の目標を達成できるのではないか。
- ④ 現場で通用するような実践的な指導を頂いたことに感謝している。
- ⑤ 卒業生の現状の確認についてはどの程度把握できているか。山本五十六の格言にあるように、やってみせる、言って聞かせてさせてみる。その上ではほめる事で人は動くので、教育においてほめる事は重要であると考え

(2) 学校運営

【現状の課題点】

中・長期的には学生数の増減や求められる人材像の変化等、外部環境の変化に対応できる体制を構築することが必要となる。教育課程編成委員会を組織図の中に組み込み、企業と連携しながら業界の動向をカリキュラム、人材育成に反映できる体制を整えることが必要である。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 学校運営に関して特に問題点は見受けられない。健全な学校運営をしていると評価する。
- ② 業界が水商売と言われていた時代であったがTVに出ることによって職種に対する理解が深まっていった。現在では、調理師の社会的地位が高めるためにTVに出ることが必要であると考え。
- ③ 社会人性を持っている学生の教育を継続して戴きたい。

(3) 教育活動

【現状の課題点】

教育活動の課題点と解決方法に関しては、教育課程編成委員会の本分であり、教育現場の意見をくみ取りながら業界のニーズや動向を把握し、適格な教職員の育成・教育内容の改善を図る。そのための今後の取り組みとしては、教育課程編成委員会が機能するように、学校法人 村川学園の長期的なビジョンを認識した上で計画的な人材育成と授業内容のカリキュラムの改善を提案できる環境を作る。現場からの意見の汲み取りや、どこまでの業界を把握すればいいか等、どのような方法が当学園に適合しているかどうかを把握し、定着させるためにPDCAサイクルを回しながら検討を行う。

次年度に向けては、より体系的カリキュラムを構築するために、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの**3**ポリシーを明

確化し、より養成する人材像を目的としたカリキュラム内容とすることとする。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① レトルト、缶詰など、食品産業の学科は憧れはないかもしれないが重要な産業であり、職域である。5年後、10年後を見据えた教育機関をつくったかどうかを考える。分野を狭めないで幅を広げるべきである。
- ② 今後、入管において、在留資格が変わることで、留学生の受け入れが広がると思うので卒業生の活躍を期待している。

(4) 学習成果

【現状の課題点】

現状としては就職率や、学生の就職活動状況は把握できている。今後の課題としては在校生に就職に関する有用な情報を提供できる環境と、それらを村川学園のノウハウとして構築する体制が必要となる。

就職率の向上に加え、就職をゴールとした教育内容ではなく、当学園で習得した調理や製菓を通じた自己実現が社会のどのようなことに貢献できるのか、当学園が長期的なビジョンを描ける場の一つとなることが重要であると考え

る。
これらの課題を解決するために、卒業生の退職事由の把握、卒業生からの意見を取り入れ、学生が学校に何を望んでいて、就職先ではどんな能力が求められているのかを的確に認識できるように努める。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 食育の重要性が注目されている。様々な分野で教える事ができるようになる事が望ましい。複数の資格取得により、将来の幅が広がる。
- ② 退学率を抑えるための対策として、こまめに連絡を取る事に共感した。
自社新入社員が、心の病気にかかる者が例年より多かった。月1回のフォローアップ面談など、より一層の細やかなケアが重要だと感じている。
- ③ 退学率に関しては難しい問題で、家庭の事情も加わり、ゼロは難しいと思う。
卒業生が全員、ホテルの料理長になれるか、といたらなれないが5%の優秀な卒業生であればそれも可能である。5%の優秀な学生が後の卒業生を引っ張ってくれる。5%の優秀な学生を育てることが大切である。5%の優秀な学生が地方に広がると物凄く大きくなると思う。

(5) 学生支援

【現状の課題点】

利害関係がない卒業生の意見は公平であり、今後の当学園の改善方法を示す重要なヒントになると考えられる。協力的な卒業生は当学園にいい印象があるため、評価の高い意見を聞けるかもしれないが、重要なのは不満を持ちながら卒業した生徒もいるに違いないため、そういった卒業生がなぜ不満を持っていたのか、どこを変えればよかったのかという意見を得ることができる場を設ける工夫が必要である。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① インターンシップ時の賃金について、企業が出すのであれば固辞する必要はない。衛生教育や挨拶など貴重な学びの場となるので、より一層力を入れるべきである。
- ② インターンシップについて、有給となれば予算の関係上、人数の絞り込みを行う必要が出てくる。期間が1ヶ月以上の場合、雇用が発生し有給となり諸手続きが必要となる。
- ③ 経営にも関わってくることだが学内外にもっとアピールしなければならない。マスコミに訴えられるようなタレントを育てるぐらいの勢いも必要であると思う。いろいろな方々に学校を知って貰うためには、学校の設備も利用して貰うことも一つの方法である。
- ④ 保護者通信や、レストランレーニングなどで父兄の方々をお呼びしていることは非常に良いことだと思う。自分の子供が通っている学校はどういう学校でどういう教育をしているかを知って戴く事は重要である。企業でも、長く働いて戴けるための社員割引制度などの環境を整えている。ご家族の協力や理解を得ることを大切にしている
- ⑤ 現場では、即戦力を求めていたがインターンシップで来て戴く事によって、現場の対応は変わってきたので、今後も引き続きお願いしたい。

(6) 教育環境

【現状の課題点】

インターンシップの提携先に関しては今後、数を増やしていく予定だが、その選定に関しては慎重を要する。実習の質を落としてしまっは何もならない。提携先の実習担当者との打合せ、学生の要望や就職先が求める能力を最優先の判断基準とし、現状の判断基準に囚われない、幅広い視野での選定を行う。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 充実した設備を用いた、在校生と卒業生の交流の場を設定する事で双方にメリットがあると考え。今後卒業生との連携が必要であると考え。
- ② 学生にとって料理書は、難しく、見慣れていくことが重要だと思う。図書館の充実を図って貰いたい。

(7) 学生の募集と受け入れ

【現状の課題点】

留学生、高校生の入学希望者の問い合わせへの対応、オープンキャンパスの受け入れ体制は整備しているが、入学を希望する高校生などの学費の問い合わせも多く、そのサポートの強化がより必要になってきている。保護者が学生の進学に対して相談しやすい体制を作る事が課題である。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 高等教育、保育料の無償化について対象校となるような情報収集が必要である。
- ② 入学する際に、卒業後はどのようなところに就職させてくれるのか、ということをおぼろげに思われる。卒業生がどういうところに勤め、どう見守ってくれているのかが、重要である。
- ③ 卒業生を呼んで講義して貰うことも良い。

(8) 財務

【現状の課題点】

高等教育の負担軽減の機関要件を満たすためには、その要件に際して、今後財務状況の情報公開が求められる。ホームページ上で公開する準備が必要となる。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 校長が一本化している事で、足並みを揃えて同法人の関連学校が集まり協議できている。18歳人口が減少する中でも、どういう学生を育成するか、学園三訓の意味を理解し指導する事で道は開かれ、安定した学校運営ができるようになる。
- ② 少子化で学校経営が難しい中、大変だとは思いますが必要な物は備えなければいけない。お客様にとっても、そこで働く職員のステータスにもなる。

(9) 法令等の遵守

【現状の課題点】

今の状況では特に問題点は目立っていない。しかし情報管理、特に個人情報の取り扱いの一つ間違えると信頼の失墜につながる。現段階でも表に出ていないだけで問題がないとは言い切れない。今後もセキュリティに関しては教職員だけでなく、学生も含めて組織全体で意識を高めていく。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 特に問題点は見受けられない。健全な運営をしていると評価する。
- ② 職員のやる気、モチベーションが下がらない様に対応をお願いしたい。

(10) 社会貢献

【現状の課題点】

ボランティア活動は学生にとっては貴重な社会の体験となるため、当学園では推奨しているが、学生からの活動内容の報告をくみ取る仕組みが不十分であることが課題である。それらの就職活動への強みとなるだけでなく、自分の可能性の幅を広げるヒントになる。ボランティア活動を評価するだけでなく、それらの体験が貴重であることを気付かせ、様々な知的好奇心を助長し、行動を促す取り組みが必要であると考えられる。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 社会貢献の成果は判断が難しい。学園の生徒である誇り、行儀や節度、躰等をもって後輩のためにも恥じない教育が必要である。
- ② 研修や出張授業など、素晴らしいことである。これからも続けていって貰いたい。食を通じて人を幸せにできることは素晴らしい業界だと痛感しており、業界の素晴らしさを伝える必要があると思う。

これらの課題に対し委員から頂いた提言を真摯に受け止め、教職員一丸となり一つひとつ課題を解決し、業界を牽引する人材の輩出に取り組んでいく所存である。